

# 支える会通信

発行責任者  
 柚木康子  
 大田区羽田  
 4-10-4  
 石井ビル3階  
 TEL03(6423)7878  
 FAX03(6423)7430  
 メール  
 sasaerukai@  
 lemon.plala.  
 or.jp

## 株主総会で支援者と 争議団が発言!



発言者の半数が解雇・安全問題に言及

6月22日10時から浦安舞浜アンフィシアターにて、JAL第67期定時株主総会が開催されました。争議団と支援者14名が株主総会に出席し、3名の支援者と1名の当該が指名されました。一般株主から2名の方も解雇問題に言及され、12名の質問者のうち、6名が解雇問題・安全問題等の質問を行いました。

会場外では総会開始まで小雨が降る中、100名近い支援者と争議団が宣伝行動を行い、通行する株主、デイズニーランド等に向かう人々にアピールを行いました。

株主総会では、各質問者が最近の安全上のトラブル、サービス低下、人

材流出などを取り上げ、解雇問題と関連付けて質問がされました。社長や担当取締役の回答は、人員不足を認めず、

エンジントラブルも多いとの認識にない、安全に不安がある状況ではないとの回答に終了しました。植木社長は「最高の社員に囲まれて幸せだ、スクラム組んで世界一のサービスを目指している」、解雇問題について「破たん時に債権者、株主、希望退職で辞めた人など、いろいろな人に迷惑をかけたので、解雇した165名だけ戻すという考えはない」と不当な発言を行いました。

解雇問題を解決せよ 総会の最後に、植木社長が18歳で入社以来整備一筋で安全を守ってきたという佐藤副社長に退任挨拶を促した時、山口パイロット団長が「我々だって安全を守ってきた!」

緒でしょう!我々は首切られたんですよ!55歳以上の機長という事で!同じじゃないですか!」と大声で訴えました。また、株主総会に毎年参加されている女性の支援者も「165名のベテランを職場に戻してください!」と社長に対して叫びました。

社長の発言とは裏腹に職場では「きつい、くらい、辞めたい」という声が春闘アンケートで多数よせられ、人員の流出は止まりません。

解雇問題を解決し、おかしいことはおかしいと言える風通しの良い職場環境にしなければ、安全で正常な事業運営はありませ



舞浜駅でのアピール行動

ん。営はあ

# 京セラの株主総会

ピラの受け取りは良好

2016年6月24日、京都市伏見区の京セラ本社にて京セラ株主総会が開かれた。午前10時に総会は開会されたが、その1時間前からは地域の『日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議』の仲間と近畿や東京から参加したJAL不当解雇撤回原告団が、「JAL稲盛和夫名誉顧問（京セラ創業者）は直接交渉を行え」などの横断幕や「JAL不当解雇撤回」などのノボリ旗を掲げて京セラ百メートルビル前に居並ぶ。



たくさん株主や通行人が「稲盛経営哲学の本質」を暴露するピラを受け取り、早々と用意したピラはなくなってしまう。

京都支援共闘の梶川憲世話人（京都総評議長）から主催者挨拶を受け、JAL客乗原告団の鈴木圭子副団長から「稲盛名誉顧問と直接会って、断固勝利を勝ち取る」という力強い決意を受けた。

## 稲盛会長は欠席！

株主総会では、例によって司会兼執行議長兼事業報告兼議案提案が山口悟郎社長よりなされたが、その前に今回は稲盛名誉会長は欠席と告げられた。質疑に入ったが、冒頭社長は、「昨年は日本航空の問題が出されたが、日本航空の労使問題については別会社の問題であるのでくれぐれも発言をお断りする。会社役員個人の誹謗中傷はしてならな

い」という条件をくどくど述べた。おかげで、何か京セラはJALの労使問題と関係があると知らなかった人にも気づかせ、すごい逆宣伝となった。

だいが経つてから挙手する人もいなくなり、しぶしぶ私が当てられた。

私は、「インサイダー取引をした幹部社員が出たが、長年京セラフィロソフィーという崇高な利他の精神とかいう、稲盛経営哲学を学んだ幹部社員から10数万円を不当に得るための人間が何故出て来るのか、インサイダー取引規定」とかを徹底したとかしないとかいう技術的な問題ではないはずだ。もう一つは、民進党京都選挙区の事前応援演説会に蹴上の都ホテルまで元気に出席する稲盛氏が、自社である年一回の私たちの株主総会に来ないのはなぜか？」と二つの質問を行った。

これに社長答えて曰く、「インサイダー取引問題

にはただただ謝罪するしかありません。稲盛は84歳で、その日その日の体調で、『今日はやめとくわ』ということのございました。今後ともその日の体調ということで出たりに出なかつたりです」と。

その後、JAL原告の鈴木圭子さんが「銀座に（京セラが直営する人口宝石の）クレサンベール店があるがすぐく入りにくい。今後の事業展開の計画は？」、「議案書によると京セラ社員の勤続年数が17・8年とあり、短くはないか？」と質問。

社長からは、「クレサンベール直営販売店は銀座と日航プリンセルホテル京都内の二か所」と、いかにもこの事業がバブルの産物による失敗事業で、しかし稲盛和夫直々の発案であるかしてやめるにやめられない事業であるように、歯切れが無茶苦茶悪かった。勤続年数は担当役員が、「他の同業種の会社とあまり変わらない。この頃は女性

もかなり活躍している」との「答弁」で、隣席の女性たちが「答えになつてないわな」と会話していた。

「いずれにしても、株主の当然の権利を不当に踏みじり、最低の資本主義的民主主義、ブルジョア民主主義の体裁さえもなりふり構わず捨て去つて、封建領主よろしく問答無用で押し切るのが京セラ流である。」とJAL問題に質問した私を屈強な若手社員6、7名で羽交い絞めして私を追い出した昨年の事件の報告は相応心えたようである。今年には名誉会長が欠席してくれて胸をなでおろしたのである。

昨日のJALの副操縦士逮捕による欠航、故障による計一日3件の欠航、京セラ幹部によるインサイダー取引事件といい、稲盛経営哲学もかなり老朽化して陰りを帯びてきたようだ。（JAL闘争京都共闘・事務局次長・稲村守）

# 「ILO労働者活動局長 アンドレさんとの懇談実現！」

ILO駐日事務所、ITF（国際運輸労連）瀧東京事務所長、及び交通労協のご尽力により、5月18日16時よりITF東京事務所においてILO労働者活動局長のマリア・ヘレナ・アンドレさんと1時間20分にわたる懇談



5月18日、ITF東京事務所においてILO労働者活動局長のマリア・ヘレナ・アンドレさんと懇談

の機会を得ることができました。

航空からは、航空連、各労組代表、争議団が出席し、昨年11月12日の第三次勧告以降の労使交渉の状況について、各代表より報告しました。

アンドレ局長から「JAL案件は十分承知しており、経過についてもフォローしている。ILOとして皆さんのお手伝いのできる限りやりたい。日本政府もILOの中で悪い評判が立つことは望んでいない。ILOもできるだけ早い解決を望んでいる」との見解が示され、三次勧告が述べている「意義ある対話」による早期解決を求めることが表明されました。

局長は支援共闘会議共同代表組織も訪れ、全労連では、局長はILO百周年に向けた活動や重点

を説明し、公務員制度改革、社会保険庁解雇事件、JAL解雇事件など結社の自由委員会にかかっている案件についても意見交換をしました。全労協では、勧告を履行しよう

とし、しない日本政府について「ILO結成100周年にあたり、監視委員会を権威・実効性あるものにするために協議を始めた」と、JAL争議について「争議状態であることは望ましくない。責任ある場所が解決案を示すべき」と発言されました。

JALに争議解決を求める運動の拡大を

今夏季闘争では、各労組が夏季要求に基づく団体交渉において会社に対し解雇争議解決に向けた「意義ある対話」を開始するように要求し交渉しましたが、「対話はすでに行っている」として解決に特化した協議を行う

つもりはないと不当な対応を続けました。

ILOの早期解決の期待に応えることは、日本航空が国際企業として社会的責任を果たすことにつながります。

日本航空は、ILO勧

告を遵守し争議解決の姿勢を早期に示さなければなりません。日本航空に争議解決を決定させる為に、大きな運動が必要で、ぜひ皆さまの更なる会員拡大へのご協力をお願いいたします！

## 国土交通省要請報告

6月21日13時から約30分間、けんり総行動東京総行動による国土交通省要請が行われました。要請団はけんり総行動実行委員会、支援共闘会議、争議団から3名、国土交通省側は4名でした。

要請団からは、「解雇争議が原因となって日本航空の職場では安全上のトラブル、問題が起こっている。ILO勧告にもあるように争議解決に向けて意義ある交渉を行うように、監督官庁として日本航空を指導するよう」に再三求めました。国土交通省側は、「ILO勧告について行政が具体的に関与すべきことではない。個別の労使関係には関与しない。」「意義ある交渉を行っていないというなら、厚生労働省も言うように、労働委員会にかけたらどうですか。」と不当な発言に終始しました。最後に労使紛争が安全に関係ないのか？の質問には「・・・わからない。」と答えました。

今後も争議団は各団体と共に、引き続き国土交通省などの行政への要請行動をおこなっていく予定です。



## 運営委員のコーナー

## 全国一般全国協特別執行委員 遠藤一郎

稲盛は「必要のなかつた解雇」の責任を果たせ!

参議院選挙後、安倍総理大臣は、事業規模20兆円を超える大型経済対策と「働き方改革を軸とする構造改革」を指示。

その目玉として、長時間労働の抑制、最低賃金の20円超引き上げ、同一労働同一賃金の実現、雇用保険料の引き下げ等を打ち出した。いずれもわれわれがこの間一貫して要求してきたものである。

「企業が世界で一番動きやすい国作り」を目指して、「労働分野の岩盤規制にドリルで穴を開けてきた」雇用破壊の張本人安倍にこんなお為ごかしを言われたくない。それを言うなら、既に提出されている8時間労働制の破壊、定額働かせ放題、残業ゼロの法案、労働基準法改悪法を撤回してから言えと言いたい。

JAL不当解雇撤回の闘いにおいても、安倍首相と同じお為ごかしを言い、自分の言動に責任を持たない最高責任者がいた。

経営の神様と言われ、JAL再建の功労者として多くの本で苦勞話を披露している稲盛前会長だ。

彼は公的記者会見の場だけでなく、宣誓をして証言した裁判所でも、「この解雇は必要のなかつた解雇だ」と明確に述べた。

しかし、解雇から5年と7ヶ月、未だに165名の「必要のなかつた解雇者」は放置されたままで、稲盛はその解決に何ら動こうとしていない。それぞれ、最高責任者と自認する者は、自己の言動に責任を持たなければならぬ。

稲盛と安倍の無責任を糾弾する闘いは、労働者の未来を切り開くための闘いの出発点だ

## 社長に対する

## メッセージカード

支える会会員の皆さまにお願いした社長宛メッセージカードは、7月末現在で772通寄せられ、合計で約1000通に達しています！たくさんの方に参加いただき本当にありがとうございました。ございました。

皆さまからのカードは、組合を通して会社に提出していきます。

以下お寄せいただいた声からはほんの一部を紹介いたします。

従業員の雇用を大切にすることは、元来、日本の会社の美德です。

アメリカの会社の中にも、Call Backを制度化している企業もあります。「被解雇者」としているベテランを現場に戻すことは、経済合理性にも叶い、競争力を高めるはずで、日本航空が真の再生を果たし、尊敬される世界の航空会社になる

支える会にも「解雇争議」を解決する真摯な努力をするべきです。(愛知)

私は、JALをよく利用します。仕事をするとベテラン客室乗務員の姿を拝見するとホッとします。

ベテランパイロットや整備士の存在は安全確保に欠かせません。利用者が命に直結する公共交通機関に求めるのは安全。解雇争議を一日も早く解決して下さい。(岩手)

一人の人間としてあなた方は、悔いのない行いをしていきますか。あなたの子供に対して、同じ態度をとれますか。恥ずかしくないですか。(岡山)

私はJALマイレージクラブの会員です。しかし、御社が、165人もパイロットと客室乗務員を2010年の大晦日に大量解雇して以来、原

則、御社の飛行機には、乗っていません。気持ちよくJALに乗れるよう、争議解決の決断をお願いいたします。(東京)

解雇争議以来、JALには乗らなくなりました。従業員的生活(命)を大切にしない会社に命を預けるのは不安です。解雇した皆さんを職場に戻して信頼を回復するのが、今の経営が一番にやることだと思えます。(兵庫)

日本航空は解雇者を職場に戻し再出発すべきです。いつまでも争議状態が続くことは国民の健全な足としての安全な航空の発展のためにマイナスです。会社は解雇した理屈やメンツを、勇気を出して捨て、解決のための話し合いに依るべきです。会社の発展のためにも、仕事の質が高い、技術的にも水準の高い解雇者たちを職場に戻すべきです。(大阪)